滋賀医科大学附属図書館CD-ROM館内LANシステムの変更

菅 修 一*

滋賀医科大学附属図書館

I. 経 過

滋賀医科大学附属図書館では、平成5年2月にCD-ROM館内LANシステム（以下“当システム”と略す）を導入し、その概略を本誌に報告した¹⁾。

その後、当システムを運用していくうちに、学内研究室からの内線電話のダイヤル・イン方式によるリモート・アクセスでの当システムの利用ができない場合が頻繁に生じるようになった。

このため、当システムのリモート・アクセスによる利用を正常な運用に戻すべく、導入業者により、諸々の対策と原因解明のためのシステム・チェックが行われた。対策とシステム・チェックが行われた点を以下に列挙する。

- 利用者が不正常な手続きによる終了・切断をしたためか、を検討したが、正常終了しても、その後、再接続できなかった、という利用者からの報告があり、原因とは考えられなかった。
- 通信ソフトウェア pcANYWHEREの設定変更。リモート・アクセスの信号を受け、リモート・アクセスに応じてシステムが起動する時点についての設定を変更してみた。変更後もリモート・アクセスが正常な運用には戻らなかった。
- 通信ソフトウェア pcANYWHEREのバージョン（version 3 と version 4.5）と通信制御用拡張ボードの対応問題も検討された。しかし、調整テストを試みた結果、通信制御用拡張ボードは、

いずれのバージョンでも使える状態になっており、原因とは考えられなかった。

- ファイル・サーバのマザーボードの交換。これによっても正常な運用には戻らなかった。
- 通信制御用拡張ボードのチェック。

以上の結果、通信制御用拡張ボードが故障しているわけではないが、通信制御用拡張ボードが介在していることでシステムが不安定である、という結論に達した。このため、II. で報告するようなシステムに平成6年2月初旬変更した。

II. 変更後の学内研究室からの内線電話によるダイヤル・イン方式によるCD-ROM館内システムへのリモート・アクセス

図1に変更後の当システムの機器構成図を掲げる。

今までファイル・サーバにつけられていた通信制御用拡張ボードを取り外し、代わりに4台のDOS/Vパソコン（COMPAQ ProLinea3/25zs）を設置した。内線電話を通しての信号を受けた当館側のモデムは、RS232Cケーブルを通して、このDOS/Vパソコンにつながる。このDOS/Vパソコンのハードディスクには、ファイル・サーバにインストールされているのと同じ通信ソフトウェアpcANYWHEREがインストールされており、研究室端末からの信号を処理する。また、このDOS/Vパソコンのハードディスクには検索ソフトウェアSPIRS v.3.11がインストールされている。Machine OSは、DOS/V 5.0である。

* Shuichi SUGA : 〒520-21 大津市瀬田月輪町.

図 1. 変更後のCD-ROM館内LANシステム機器構成図

Ⅲ. おわりに

変更後の当システムは、約1か月たち、安定した運用を行っている。

本学においても、キャンパスLANの導入が予定されており、当システムにも変更点がでてくることになるかもしれない。

CD-ROM館内LANシステムのトラブルに誠実に対応して下さったユサコ㈱ならびに東洋通信機㈱の皆様に感謝いたします。

<注>

本報告で使用するソフトウェア名・製品名等は、一般に各開発メーカー・販売会社の商標または登録商標です。

参考文献

- 1) 菅 修一. 滋賀医科大学附属図書館におけるCD-ROM館内LANシステムの導入. 医学図書館 1993 ; 40(3) : 299-303.